

番号	11	
① プロジェクト名称	コンテンツデザインに関する科学的設計基盤を用いた地域印刷業の活性化支援	
② プロジェクトメンバー(代表のみ)		
情報フロンティア学部 メディア情報学科	山田 真司	代表
③ 参加学生数(報告時点)		
学部 1～3 年次生	研究室所属学生 (大学院生含む)	外部参加者数
20 名	32 名	3 名
④ 活動報告 (これまでの活動、年度末のまでの活動予定、活動における課題等について書いてください。フォントは 9～11pt 以内。行間は適宜。写真や図も O.K)		
<p><b>1) 学生への本プロジェクトの紹介および参加の呼びかけ</b></p> <p>・4～5月、プロジェクトメンバーであるメディア情報学科山田、松下、江村、高野の各研修室および心理情報学科渡邊研究室において、本プロジェクトの紹介を行い、プロジェクトへのゼミ学生の参加を呼びかけた。また、4月14～15日プロジェクト合同説明会にて1～3年生学生に本プロジェクトの紹介を行い、プロジェクトへの参加を呼びかけた。</p> <p><b>2) 地域印刷業者とのコンタクト</b></p> <p>・現在までに地域の印刷業、数社とのコンタクトを取ったが、ここからは直接的に具体的なニーズの掘り起こしには至らなかった。しかし石川県庁職員から観光振興を目的としたポスターの事例を紹介され、これらを用いて実際に感性評価実験を行った。今後、県庁を通じて、地域印刷業のニーズをキャッチアップする予定である。</p> <p><b>3) 感性評価実験</b></p> <p>・石川県(白山市)及び他県の観光振興を目的としたポスター41種を用いて感性評価実験を行った。その結果これらポスターの印象は、「親しみやすさ」、「派手さ」、「高級感」の3次元空間で構成され、白山市のポスターはかなり親しみやすく、ある程度高級なイメージであることが示された。このイメージと、もともとポスターによって伝えようとしたイメージとが合致しているかどうかを照らし合わせることによって、ポスターによるイメージ戦略の成否を評価できる。このようにして、印刷物によるイメージ伝達の成否の「見える化」ができることを実証した。</p> <p><b>4) 勉強会の開催</b></p> <p>・呼びかけに応じた学生を集め、現在まで2度の勉強会を開催した。</p> <p>第1回勉強会 5/13(金)16:40～18:10 23.218</p> <p>第2回勉強会 6/24(金)16:40～18:10 23.211</p> <p>ここでは地域印刷業の活性化に資するための感性評価実験の手法について、過去の研究例を用いて紹介するとともに、学生達の理解を深め、学生主体で感性評価実験ができるよう指導を行った。</p> <p><b>5) 今後の予定</b></p> <p>・今後、石川県庁を通じて、印刷業者と密にコンタクトを取り、研究成果の印刷業への応用、及び、印刷業者からのニーズの掘り起こしを行う。</p> <p>・10月～2月にかけて勉強会を3度ほど開催する予定である。</p> <p>・地域印刷業の活性化を支援するための感性評価実験をさらに行う。</p> <p>・年度末に、印刷業者、デザイナーを招き、プロジェクト参加学生とともに公開シンポジウムを開催する。</p>		